

三交バス 津駅東口3番のりば
 椋本行き椋本バス停下車600円
 (小人300円)

| (発) | (着) |
|------|-------|
| 7:53 | 8:23 |
| 8:33 | 9:03 |
| 8:53 | 9:23 |
| 9:13 | 9:43 |
| 9:33 | 10:03 |

(臨時便)
 (臨時便)

※臨時便については、発車時間が前後することがあります。

スタート受付
 9:00~10:00

11/8(日)

中級コース 伊勢別街道

〔約11km〕

お車をご利用の方へのお願い
 お車をご利用の方は市芸濃庁舎駐車場に駐車いただき、ゴール後、三交バス高田高校前より、新屋敷バス停へ移動してください。
 (大人430円、小人220円)

公共交通機関の料金は各自でお支払い下さい。



芸濃総合文化センター スタート

角屋旅館
 国登録有形文化財 揚戸や出格子等が旧伊勢別街道の旅籠の表構えを今に伝えます。

椋本の大樟
 国の天然記念物。椋本の地名はこの木に由来するといわれています。

銭懸松
 昔、病気になる参宮道者が、旅半ばで引き返す際、この地の松に銭を結びつけ拜んで立ち去りました。別の人がその銭を奪おうとすると、銭が蛇に化けて襲いかかったという逸話から、この松に銭を懸けると参宮と同じくらい御利益があるという民話が残りました。

一身田寺内町・専修寺
 一身田寺内町は、三重県下で唯一残る寺内町です。その歴史は寛正6年(1465)に下野国(栃木県)高田専修寺10世真慧が、蓮如の本願寺勢力に対抗し無量寿院と呼ばれた本坊を移したことに始まります。戦国時代に入って、下野の高田専修寺が炎上荒廃したことから、ここが高田派の中心となって寺名も「専修寺」と称するようになりました。そして、正保2年(1645)の火災で寺内町が全焼しましたが、万治2年(1659)にその修復と寺域拡大のため、津藩2代藩主藤堂高次公が領地を寄進し、17世紀末には専修寺を中心に末寺や民家を囲い込んで、周囲に外濠を巡らし、寺内町の形態を作り上げました。近畿地方には、戦国時代から江戸時代にかけて、このような寺内町がいくつか造られました。寺内を濠で囲った環濠がほぼ完全に残っていて、当時の町の形をよく残しているのが、こゝ一身田寺内町です。

窪田宿
 現在宿屋を営む家はないが、約30軒の家々に残る屋号に往時を伺える。そのうちの1軒が本陣・問屋・庄屋の三役を兼ねた国府家で、玄関に「明治天皇窪田御小休所」の石碑が建っています。

窪田の常夜燈
 この常夜燈は、高さ約8.6mもあり市内最大です。文化14年(1817)に作られたもので、近江国(滋賀県)の商人が伊勢神宮へ寄進したものとされています。近江から大勢の人で伊勢神宮へ寄進する際、ここまで常夜燈を運んできましたが、荷車が壊れたり、疲労などで困り果て、窪田の人々とも相談したところ、宿屋の近江屋の協力によりこの地に建立したとされています。

●完歩スタンプ押印
 11:00~15:00

| JR東海 津方面行き | | 三交バス 高田高校前のりば | |
|------------|---------|---------------|-------|
| 一身田駅 | 津駅 180円 | (発) | (着) |
| (発) | (着) | 12:25 | 12:40 |
| 12:30 | 12:33 | 12:55 | 13:10 |
| 13:30 | 13:34 | 13:25 | 13:40 |
| 14:30 | 14:34 | 13:55 | 14:10 |
| | | 14:25 | 14:40 |

(臨時便)
 (臨時便)

